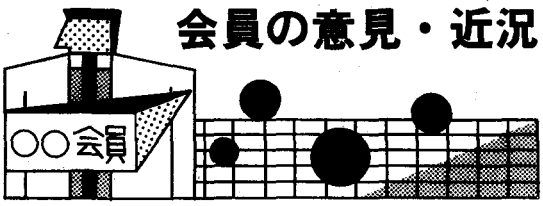

会員の意見・近況

本号より会員の皆様の近況ばかりでなく，ご意見をおよせいただくことにいたしました．ふるってご投稿ください．

意　見

最近のORに思う

荻野　正浩　(株)ディジタルコンピュータ

世は挙げて高度情報化時代，ニューメディア時代と何かにつけてそのフィーバぶりが話題としてとりあげられている．小生も縁あって上京し，その方面の企業に第2の人生を送らせてもらっているが，東京では連日どこかで関係ショーや講演会などが開かれ，まともにお付き合いしたら仕事の時間もない熱気ぶりである．

こうした中で，ORが活気をとりもどしているやに見受けられるのは御同慶の至りである．原因の1つは，パソコンの普及で難物のデータ加工・分析が手軽になったためらしい．また，POSなどで得られた厖大な情報を経営に活かそうとする動きが，経営科学としてのORの再登場を促がし，さらに，エキスパートシステムや人工知能構築の中で，ORが再認識されたこともあろう．今日までの蓄積が，恰好の伴侶を得ていちどに花開いたというところであろうか．

学会の発表にもこうしたプログラム化に関するものがかなり見受けられる．内容もエキスパート化して，特定の手法の単体プログラムやその集合物の域を超え，コンピュータ自身の中で，種々の推論・評価を加えて，データの取捨，条件設定，手法の選択などを行ない，分析結果をグラフ化するなど，人間の意思決定に準じた形でのプログラム化が進んでいる．

その反面，OR発表(？)と戸惑うような単にプログラム化したという報告も散見される．ORというからにはやはり何らかのモデル応用ないしモデル化意識が必要と考える．ある分野では標準技法はないという意見もあろうし，個別事例をつみ重ねてのモデル化という考えもあろうが，だとすれば，そのプログラムがいかに独特のものであるが故にモデル化になじまないかが明らかにされ，あるいは，他の会員によってその設計思想が認識でき，モデル化への道をさぐることができなければなるまい．

憎まれ口を叩いてみたが，先端企業の中にいながら，いざ自分の仕事の問題にとりくんだとき，これといった決め手になる手法がさっぱり浮んでこないのが残念である．

ある機械を選択するのもその1つだが，アンケートによったり，ウェイトつき評点を行なうなど，評価方法はいろいろ考えられるが，単純すぎてはORというにはおこがましいし，むずかしくしすぎても分析のための分析になりそうである．もっとも，ORの規定としては，数式化にこだわるべきではなく，文章記述法であっても普遍的法則性を有するかぎりにおいては，問題解決手法として立派なORモデルであると考えているのだが，いかがであろうか．

かくして，世の潮流にそむいて，能力不足をなげきながら原始的な主観的判断の荒野の中で出口を探し求めている今日この頃である．

執筆者に期待するだけでなく

本間　丈士　共和コンクリート工業(株)

OR誌の存在目的は何でしょうか．論文誌と違って，学会員がOR誌に期待するものは，必ずしも一様ではないと思います．学会の執行部や編集委員会が考えているOR誌の役割と一致しないものもあるかもしれません．学会員の期待をできるだけ汲みあげた企画・編集をぜひ期待します．

ところで，書かれた内容がわからなければ興味もわきませんし，ましてや自分の仕事や関心のある分野で使えそうか否かの判断もできません．“わかりやすさ”の実現は，第1に原稿の執筆者がどこまで努力を払うかによると思います．編集委員会の役割として，会員の要求にこたえる企画の検討は当然のこととして，読む者にとって少しでもわかりやすい原稿を心がけてもらうように，執筆者に対して働きかけることも必要ではないかと思います．

もっとも，“わかりやすく”書くには，相当な時間とエネルギーを要しますので，それだけの犠牲を払ってもよいと，執筆者がOR誌への執筆に価値を認めなければならないでしょう．執筆者のサービス精神に期待するだけ

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．